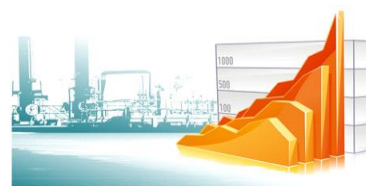


# ぎふ経済レポート



令和3年4月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 4月23日～27日を中心に実施し、5月14日時点で作成。

# 景気動向

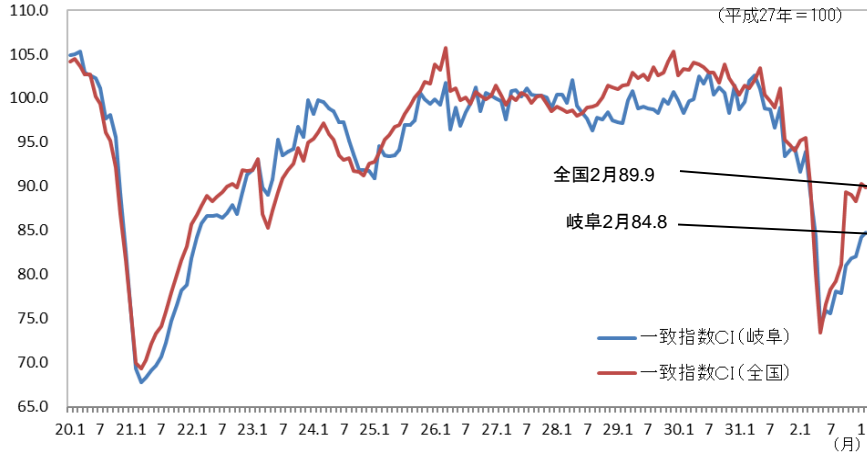
○2月の景気動向指数(一致指数)は、84.8で前月比0.5ポイント上昇した。

○3月の県内中小企業の景況感は、▲53で前月比13ポイント上昇した。

○4-6月期の景況DI見通しは、製造業で22.5ポイント、非製造業で17.0ポイント上昇した。

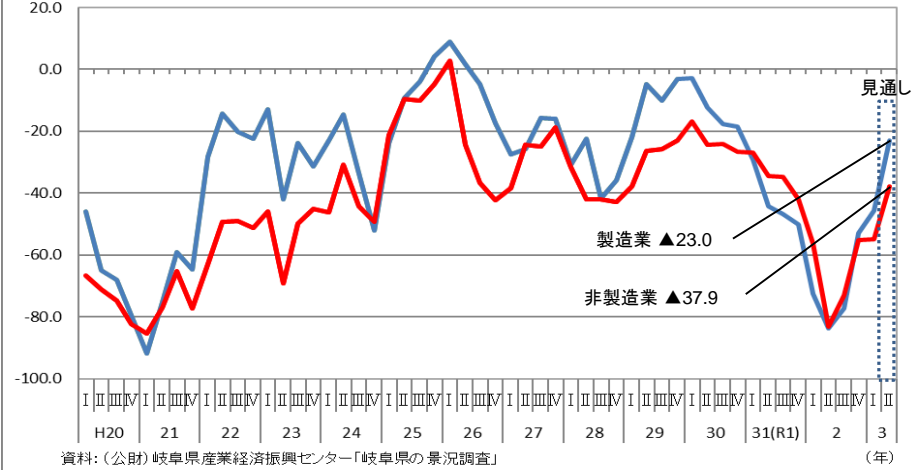
○同売上高DI見通しは、製造業で23.4ポイント、非製造業で16.5ポイント上昇した。

岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



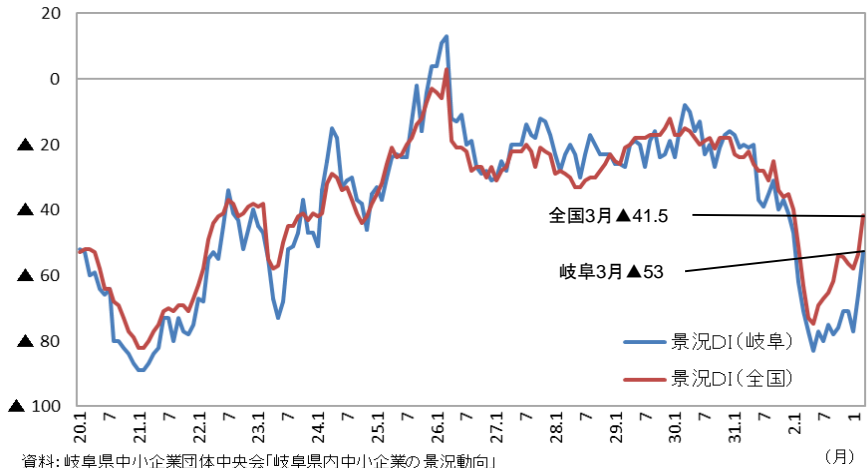
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



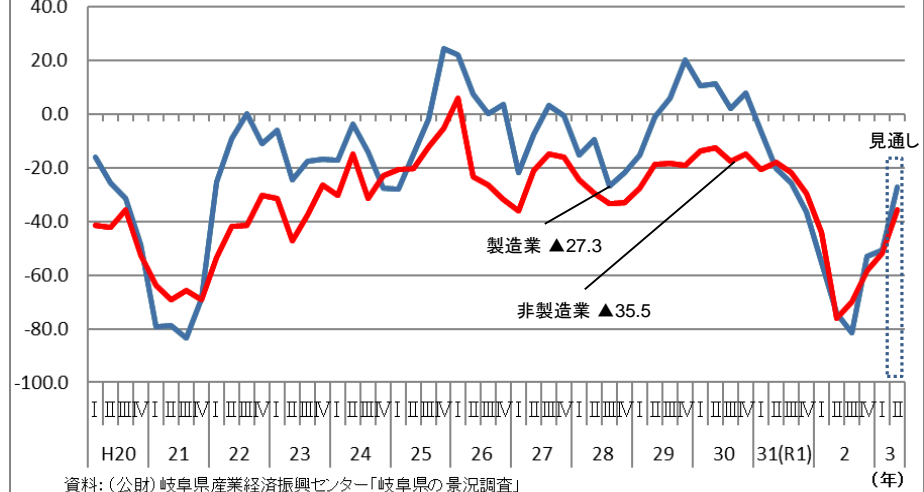
資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」  
全国中小企業団体中央会「中小企業月次景況調査」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

# 製造業

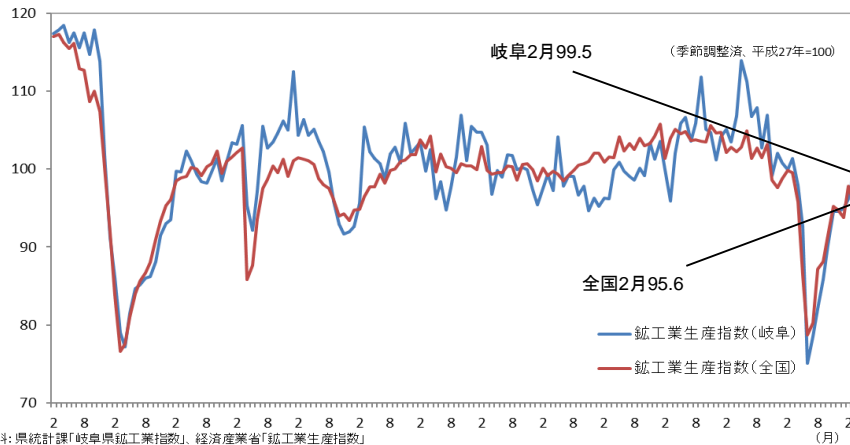
○2月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、99.5で前月比3.4%と上昇。

○主な産業の前月比では、はん用とプラスチック製品工業で低下し、多くの産業で上昇した。

○2月の主な産業の指数は、はん用で前月比

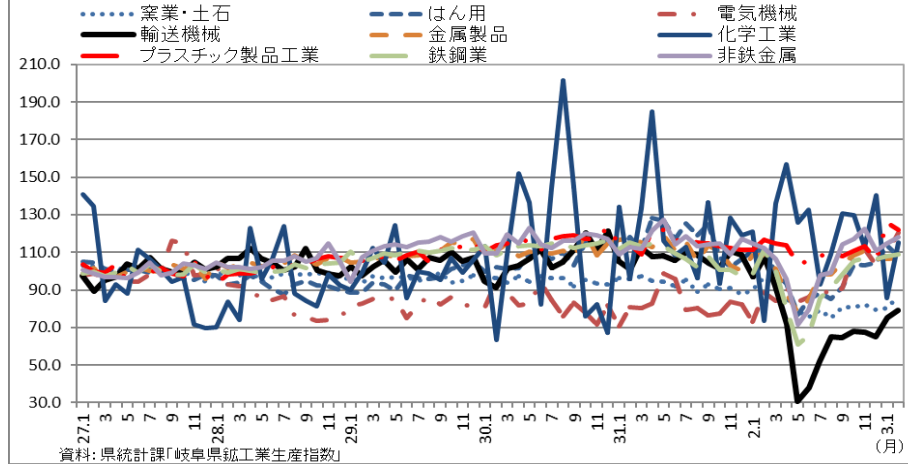
▲5.3%、プラスチック製品工業で同▲2.8%と低下したものの、化学工業で同34.5%、電気機械で同10.6%、輸送用機械で同5.2%、非鉄金属で同2.9%となるなど、他の産業では上昇した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



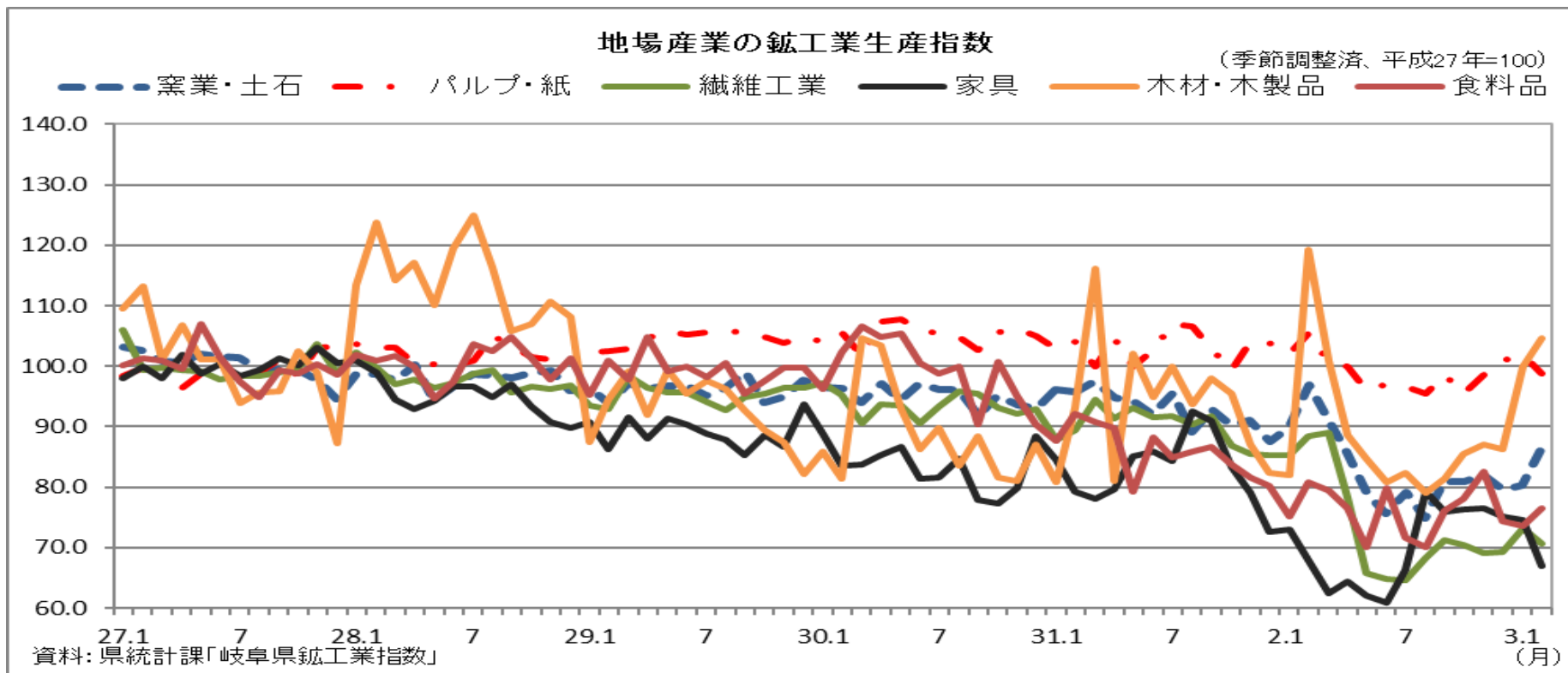
## 現場の動き

(※新型コロナウイルス、半導体関連はP6にも掲載)

- ◆ 自動車関連については需要が戻ってきたようだが、電子部品不足による生産調整が懸念される。(輸送用機械)
- ◆ 中国の好調に牽引される形で引き続き好調を維持しており、4月も対前年同月比で5~10%程度増加となる見込み。米国の政権が代わった直接的な影響とは言えないかもしれないが、北米向けも上向いてきた。そのため、社員の残業や休日出勤も行っている。(輸送用機械)
- ◆ 国内工場は前年同月比以上で稼働している。自動車・自転車部品ともに好調である。従業員は全員出勤しており、休みにしていない。残業もある。(非鉄金属)
- ◆ 国内の受注について、自動車関係は100%稼働している。工作機械関係も90%まで戻ってきた。(電気機械)
- ◆ 国内工場は100%に近い状況で稼働している。自動車関係の開発、設計の遅れが解消されつつある。(生産用機械)

## 製造業-2

○2月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、窯業・土石で前月比8.0%、木材・木製品で同4.7%、食料品で同3.9%と上昇したものの、家具で同▲10.1%、繊維工業で同▲3.4%、パルプ・紙で同▲2.9%と低下した。



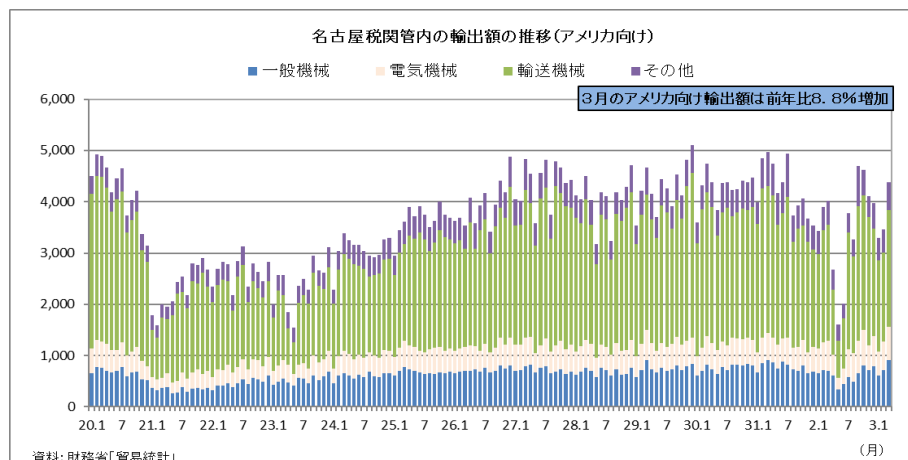
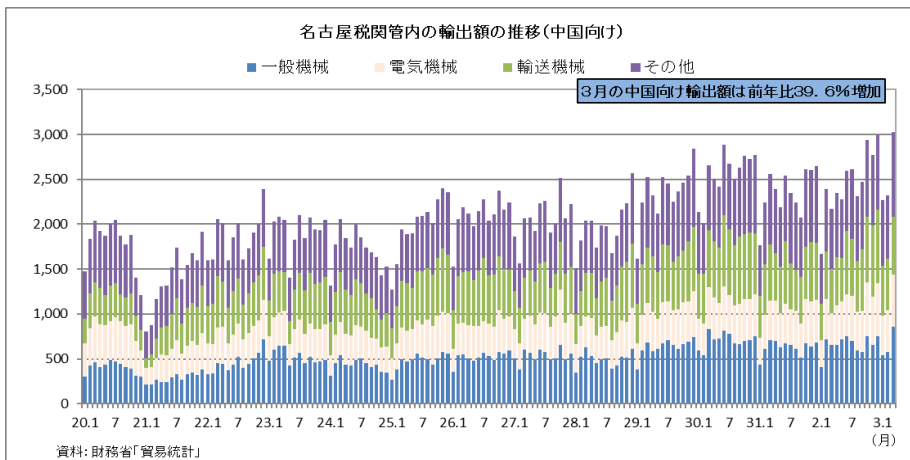
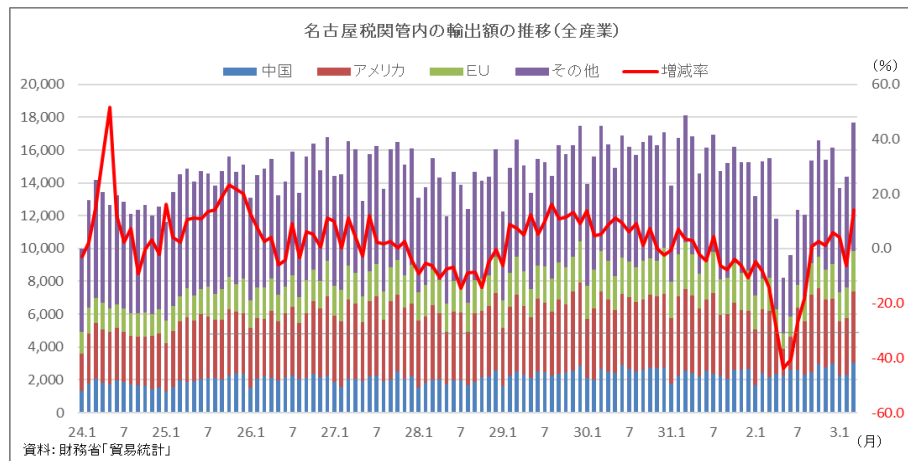
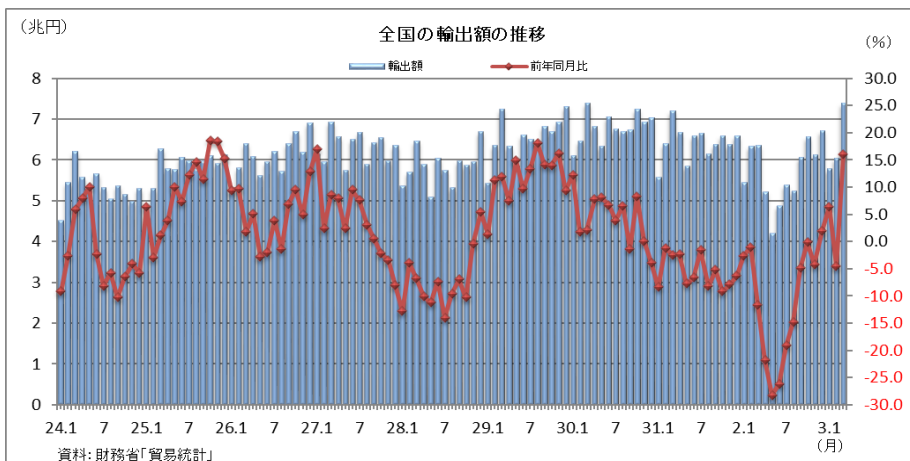
### 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆ メンズスーツが在宅勤務の影響、大型店舗の閉店で特に売れ行きが厳しい。婦人服は引き合いが出てきたが、量が多く納期が間に合わないこともある。医療用ガウンの追加発注は今も多い。(繊維)
- ◆ ホテル、レストラン向けに商品を販売していたが、コロナの影響で売上は40%近く減少した。(窯業)
- ◆ 欧米からの建材が不足しているという話を聞いており、刃物のグリップに影響が出るかもしれない。(刃物)
- ◆ 例年はお祭りシーズンで提灯の需要が高まるが、昨年につき今年も動きはない。(紙)

# 輸 出(名古屋税関管内)

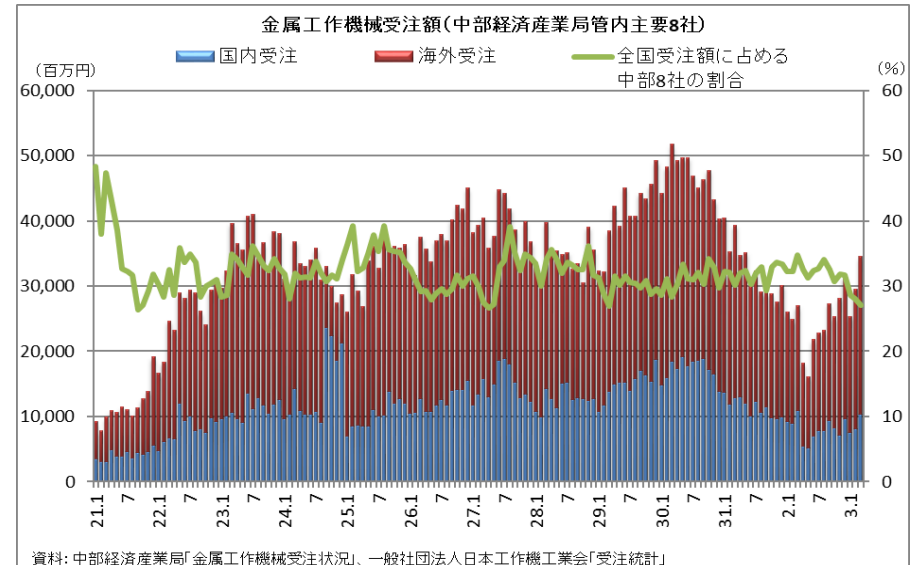
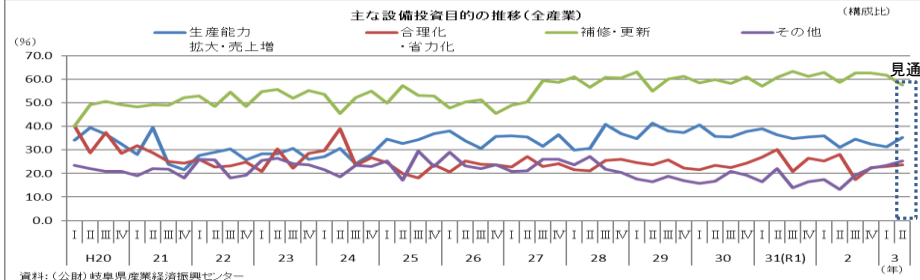
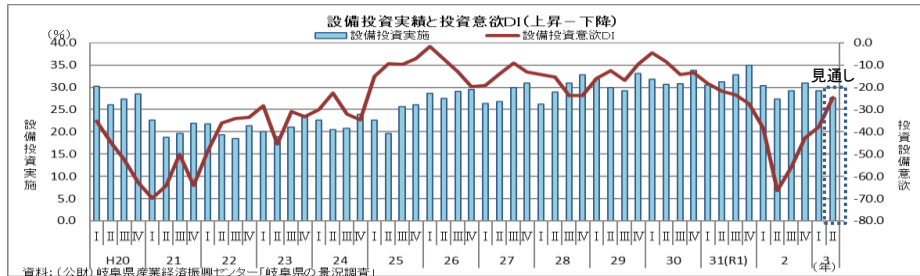
- 3月の輸出額(全国)は、7兆3,783億円と前年同月比16.0%と前年同月を上回った。
- 3月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆7,686億円と前年同月比14.1%と増加し、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比39.6%増加した。その内、電気機械で同62.1%、輸送機械で同32.2%、一般機械で同31.5%増加した。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比で8.8%と増加した。その内、一般機械で同30.2%、電気機械で同8.3%、輸送機械で同1.3%増加した。



# 設備投資

○4-6月期の設備投資実施DI見通しは前期比▲1.5ポイント低下、設備投資意欲DI見通しは同13.1ポイント上昇。設備投資実施DI見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比3.8ポイント、「合理化・省力化」で同0.7ポイント、「補修・更新」で、同▲4.1ポイント低下した。

○3月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比28.1%と2ヶ月連続で前年を上回った。内訳は国内受注では同▲5.1%と28ヶ月連続で前年を下回ったものの、海外向けは同50.6%と5ヶ月連続で前年を上回った。



## 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆ 電子材料向けなど堅調な業界向けの製造設備については積極的に進めていくが、その他向けの投資については慎重に精査をしながら進める。(輸送機械)
- ◆ IT関連の設備投資には積極的に取り組んでいく。(生産用機械)
- ◆ 昨年度に大掛かりな設計システムを導入した。今年度はそのシステムの運用を充実させていく予定。(生産用機械)
- ◆ 新工場の建設を検討している。(はん用機械)
- ◆ 今年度下半期又は来期に設備投資を実施する予定。(はん用機械)

## 製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆ コロナ禍によってIT化が急速に進んでいるため、電子・半導体関連材料の分野は非常に堅調であり、関連製品の製造が間に合わない状況にある。(輸送用機械)
- ◆ 客先の生産調整によっては、当社も休業を実施する可能性がある。(輸送用機械)
- ◆ 令和2年4～6月に売上が半減したが、7月以降は中国の回復が早かったので例年以上の売上となっている。コロナの影響を感じたのは第1波のみ。(輸送用機械)
- ◆ 事業所間および取引先との打ち合わせはWeb会議が主体となっている。(輸送用機械)
- ◆ 海外の取引先については、話はあるが動けない。(電気機械)
- ◆ 大手企業からの受注が増加傾向にあり、当社の生産稼働率は100%近くまで回復している。(金属製品)
- ◆ 海外に工場を持っており、インドの変異株やミャンマーの政変などの影響が不安である。(繊維)
- ◆ テイクアウトニーズが増えることで、紙皿やプラスチック容器の需要は増えるが食器ニーズは減っている。(陶磁器)
- ◆ 陶磁器商社や雑貨を扱う事業者の業績は良いと聞いている。(陶磁器)
- ◆ コロナの影響で業務用の商品は売れ行きが下がったが、家庭用の商品の売れ行きが好調である。(刃物)
- ◆ ステイホームの高まりで、机や家具を新調される方が多くなり売上は堅調である。(木工)

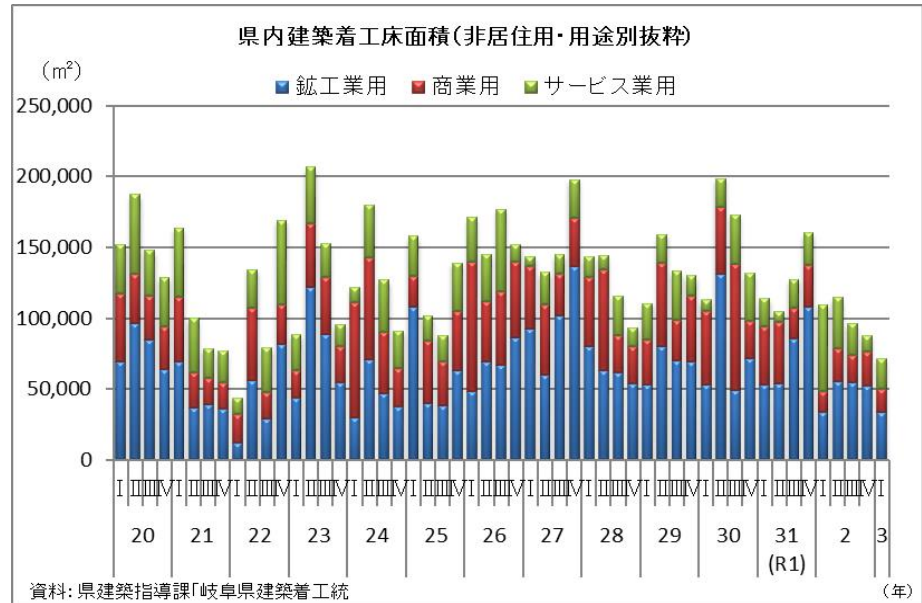
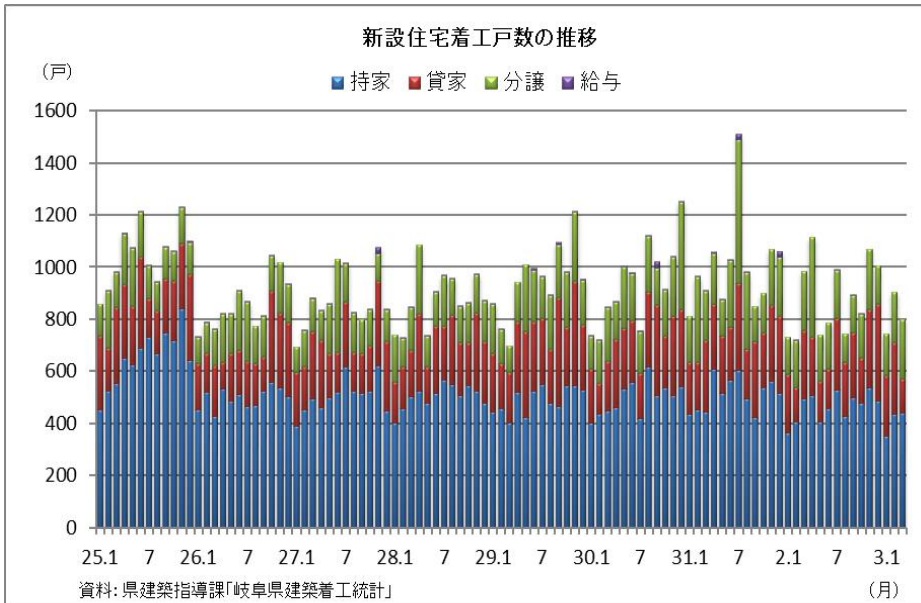
## 半導体大手ルネサスエレクトロニクス的那珂工場で発生した火災の影響について

- ◆ 半導体不足等による減産により受注が減少した。(生産用機械)
- ◆ 今後の供給次第では、客先のラインが停止することで当社の受注の減少もあり得る。(輸送用機械)
- ◆ 装置に使う半導体の入荷が遅れ、影響が出ている。(輸送用機械)

# 住宅・建築投資

- 3月の住宅着工戸数は、前年同月比▲18.7%と減少した。
- 貸家で前年同月比▲51.0%、持家で同▲11.1%減少、分譲で同2.2%増加した。

- 1-3月期の非居住用の建築着工床面積は、商業用で前年同月比17.1%と増加したものの、サービス業用で同▲65.7%、鉱工業用で同▲1.5%と減少し、全体として同▲35.0%と減少した。



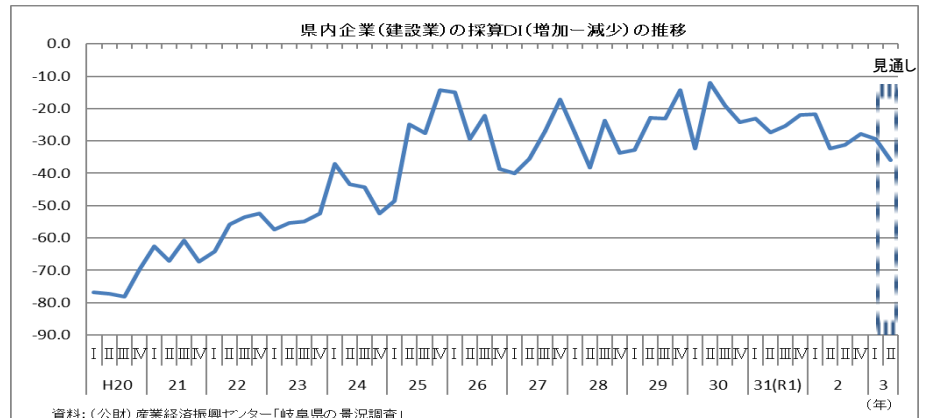
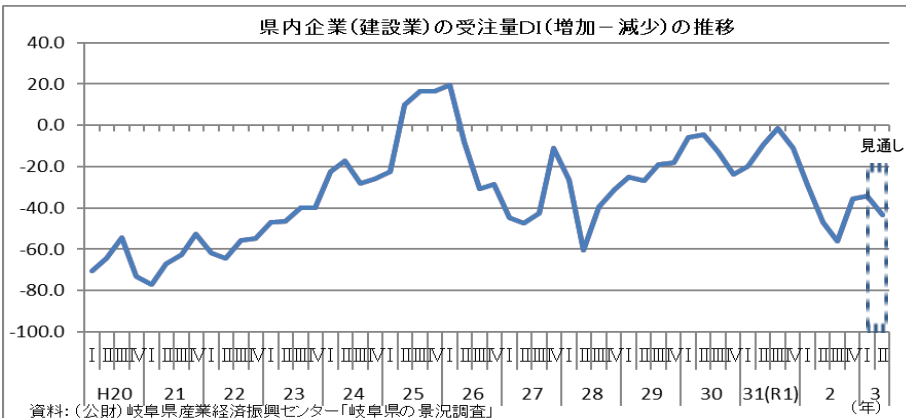
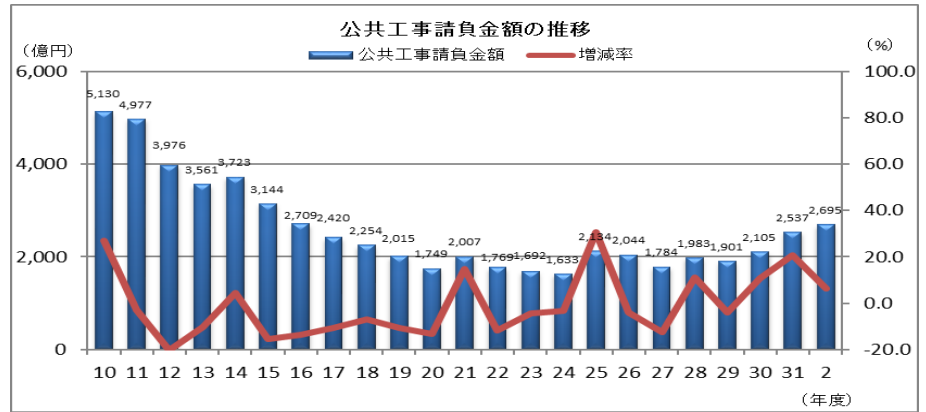
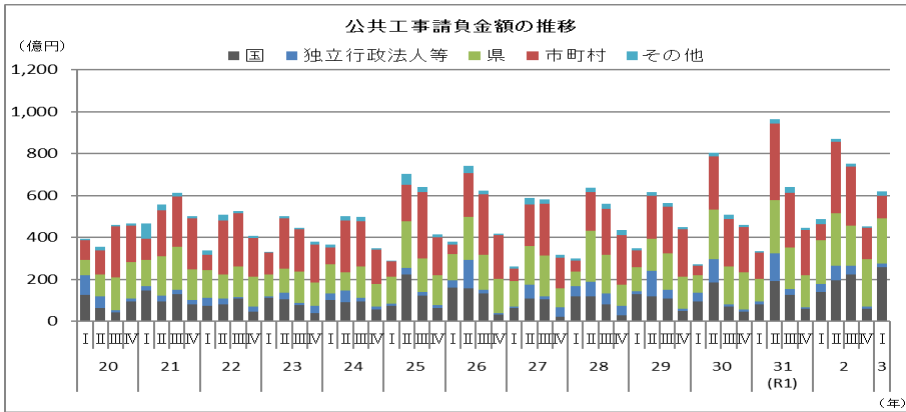
## 現場の動き

- ◆ ウッドショックで日本に外材が入ってこなくなった。(製材)
- ◆ ウッドショックによる木材調達については、当社の調達担当から情報はなく当社には影響は未だ来ていない。(建設)
- ◆ 外材の値上がりを見積価格に転嫁せざるを得ないが、海外情勢が伝わり徐々に理解が進んでいる。(木材)
- ◆ 建築需要はあるが、木材が入ってこないため、受注が伸びない状態となっている。(組合)
- ◆ 木材の需要はあるが、原木が常に不足している状況。(組合)



# 公共工事

- 1-3月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人等で前年同期比▲62.3%と減少したものの、国で同87.5%、市町村で同37.5%と増加するなど、全体で同26.7%増加した。
- 県内建設業の4-6月期の受注量DI見通しは前期比▲9.3ポイント、同採算DIは同▲6.6ポイントと低下した。



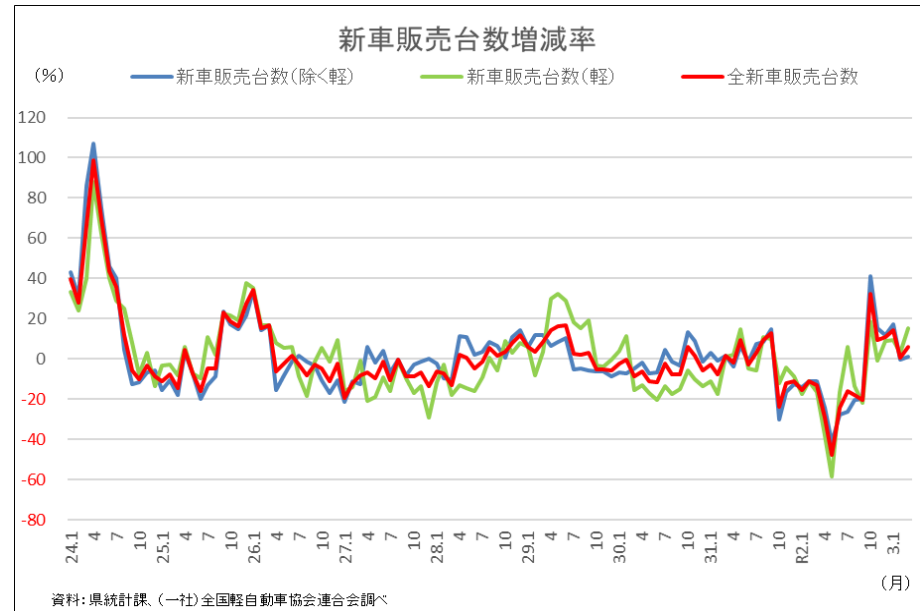
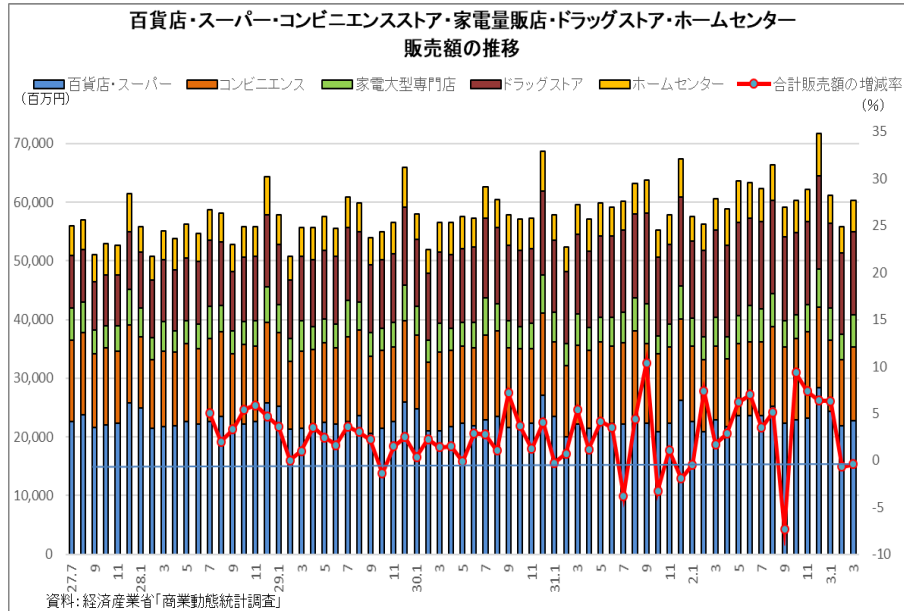
## 現場の動き

- ◆ 公共工事の平準化の効果が出ているのか、例年に比べると技術者に少し余裕があるように思われる。
- ◆ 前月からの傾向が続いており、鋼材が非常に高騰し、設計単価が合わなくなっている。
- ◆ 年度内はフル稼働で工事を進めていく状態が続く。(以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○3月は家電大型専門店が前年同月比11.9%、ホームセンターで同2.2%、コンビニで同0.9%と増加したものの、ドラッグストアで同▲5.3%、百貨店・スーパーで同▲1.2%と低下し、全体では同▲0.4%となった。

○3月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比1.3%と前年同月を上回った。軽自動車は同15.2%と4ヶ月連続で前年同月を上回った。合算では同6.0%と、6ヶ月連続で前年同月を上回った。



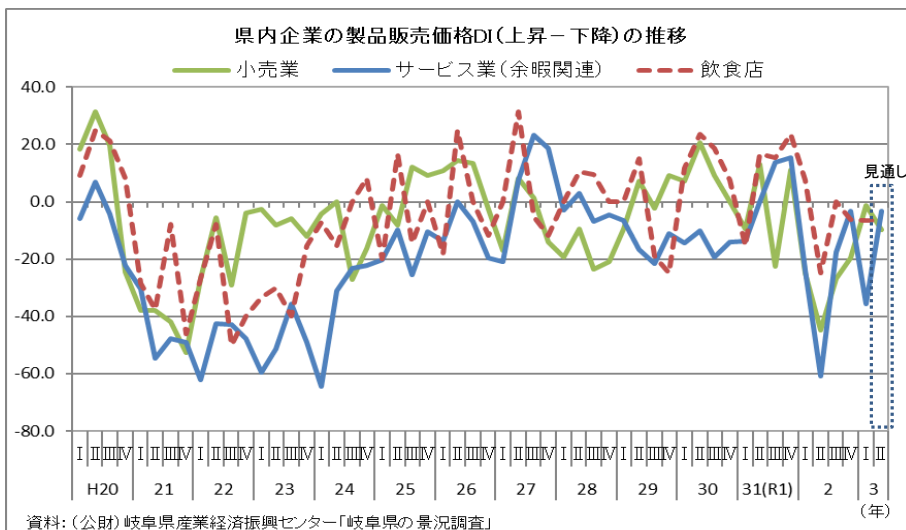
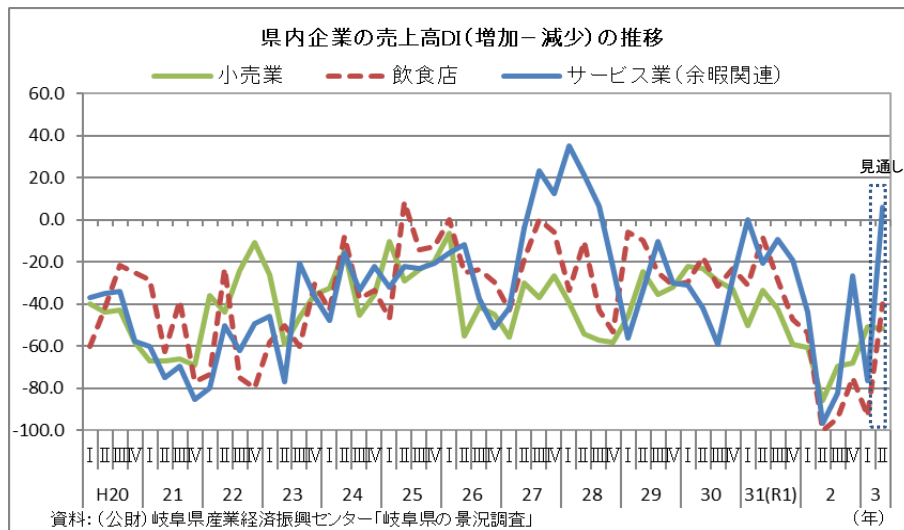
## 現場の動き

- ◆ 前年同月は緊急事態宣言で売上・客数ともに落ち込んでいたため、売上は前年同月比で95%増加、客数は同100%増加した。
- ◆ 昨年はまとめ買いの傾向があったが今年あまり見られない。(以上、岐阜市内大型商業施設)
- ◆ 前年同月と比較して売上、客数ともに落ちている。(岐阜市内大型スーパー)
- ◆ 前年同月比で売上、客数ともに増加した。3月上旬に緊急事態宣言が解除された反動で増加したのではないかと推測。(大型スポーツ用品店)

## 個人消費(流通・小売)－2

○4－6月期の売上高DI見通しは、サービス業(余暇関連)で前期比82.4ポイント、飲食店で同53.3ポイントと上昇し、小売業で同▲1.1ポイントと低下した。

○同じく販売価格DI見通しは、サービス業(余暇関連)で前期比32.3ポイントと上昇、飲食店で前期比横ばい、小売業で同▲8.7ポイントと低下した。



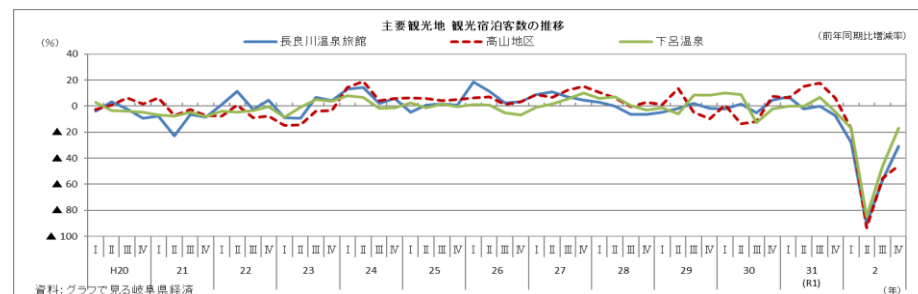
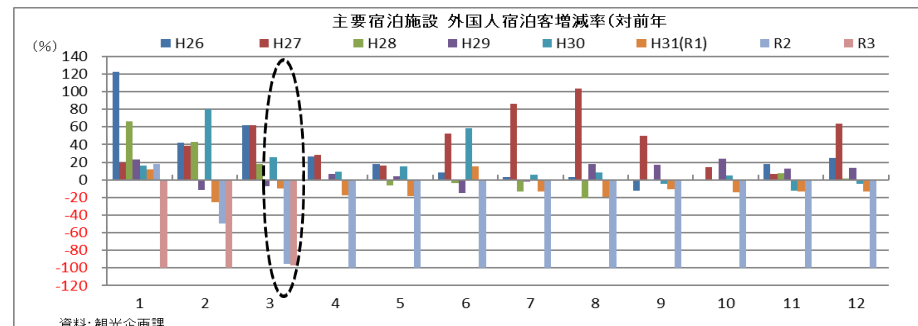
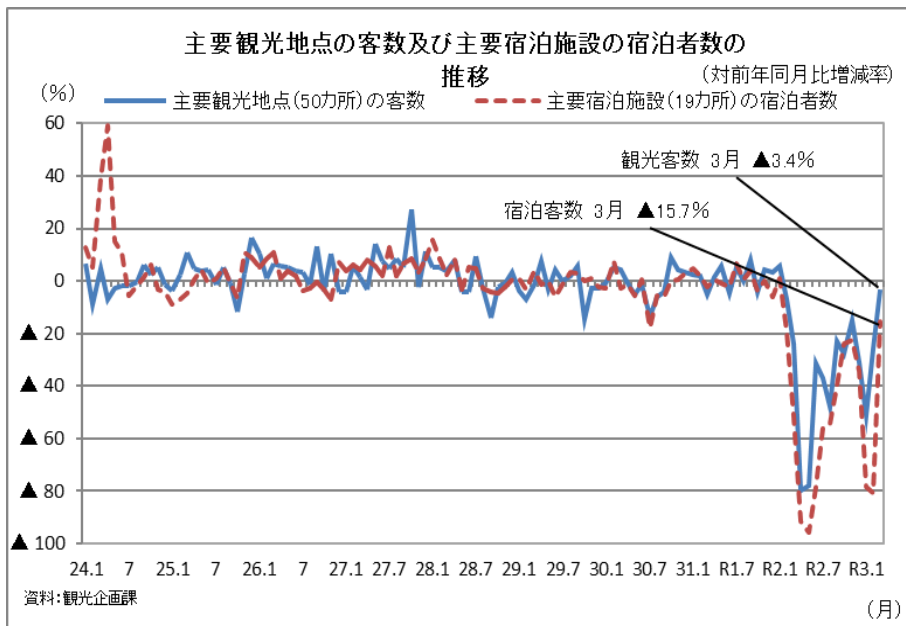
### 現場の動き

- ◆ イベントが再開され徐々に人出は戻りつつあったが、4月に入ってから第4波拡大の影響が鮮明になりつつあり、また岐阜県独自の非常事態宣言の発令により、来街者が再び激減している。着物販売店では、1年前から経験したことのない厳しい状況が続いている。昨年秋口には少し明るい状況であったが、今年に入り再び悪化し、4月はどの店も苦戦している。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 日用・雑貨店では、企業向け納品はほとんどの企業で激減した。和菓子店では、売上は前年同月比で50%増加したものの、一昨年の水準には及ばない。(以上、大垣市商店街)
- ◆ 家電販売店では、家電の買い控え傾向が見られる。巣ごもり需要がひと段落したと思われる。カメラ・プリント店では、日本人観光客の回復や他の写真スタジオが閉店したことで、来客が増加した。(高山市商店街)

# 観光

○主要観光地における3月の観光客数は、前年同月比▲3.4%と減少し、14ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同期と比較して▲15.7%と減少し、14ヶ月連続で前年同月を下回った。

○3月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比の増減率では▲97.2%と14ヶ月連続で前年同月を下回った。

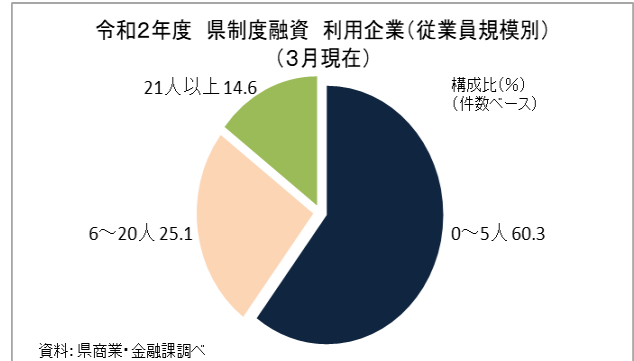
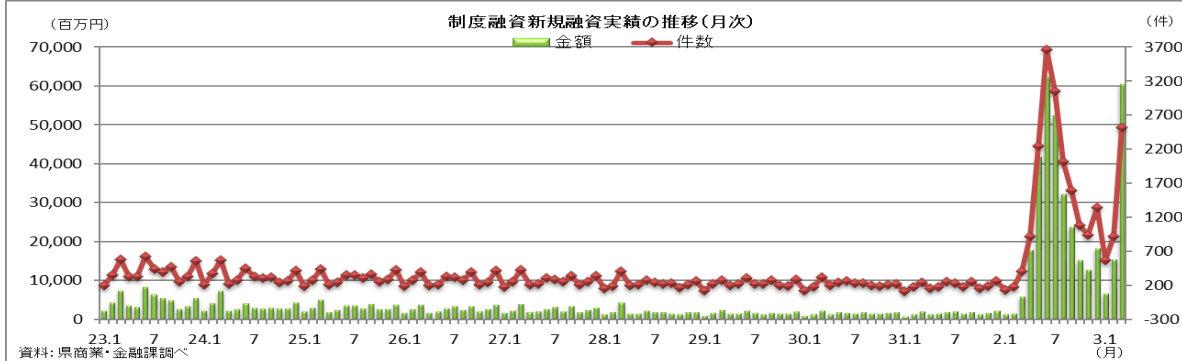
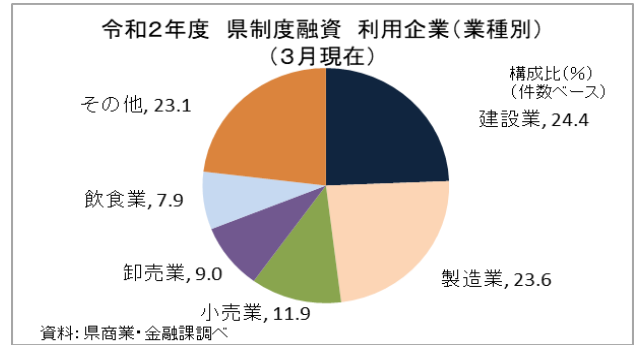
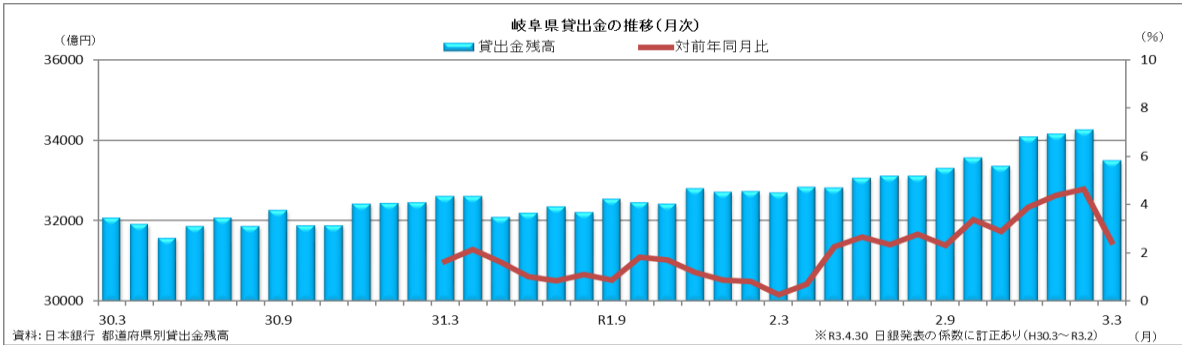


## 現場の動き

- ◆ 宿泊者数は例年の▲85%程度。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ コロナの影響が出る前の一昨年と比較して、宿泊者数は▲20%~30%程度。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆ 平日はほぼ休館。(郡上市内の宿泊施設)
- ◆ 地域観光事業の支援のため、県内GoToを早く始めてほしい。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ 今後2年くらいはインバウンドの見込みはないものと思われる。いかに国内の宿泊客を集客できるかがポイントとなる。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆ 先行きが不透明。未だ全社員が出勤できるだけの売上が無い。(岐阜市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 3月の岐阜県貸出金残高は、3兆3,500億円で前年同月比2.4%とプラス基調が続く。
- 3月の制度融資実績は、金額が60,467百万円で前年同月比925.3%と増加した。  
件数は2,515件で同527.2%と増加した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の60.3%を占めている。

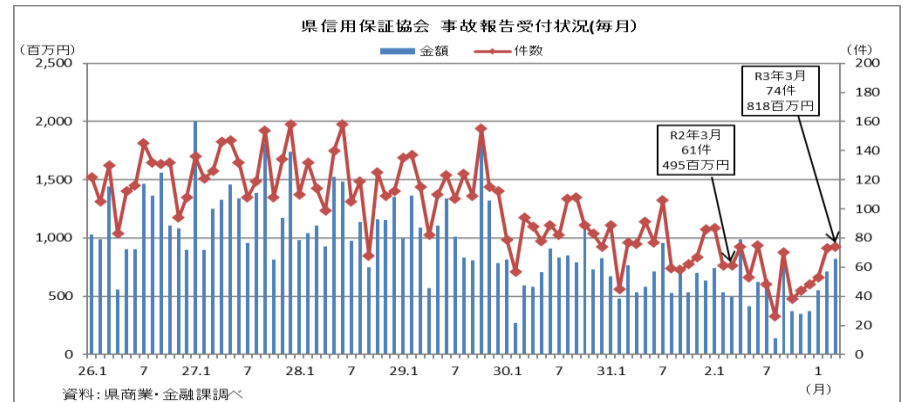
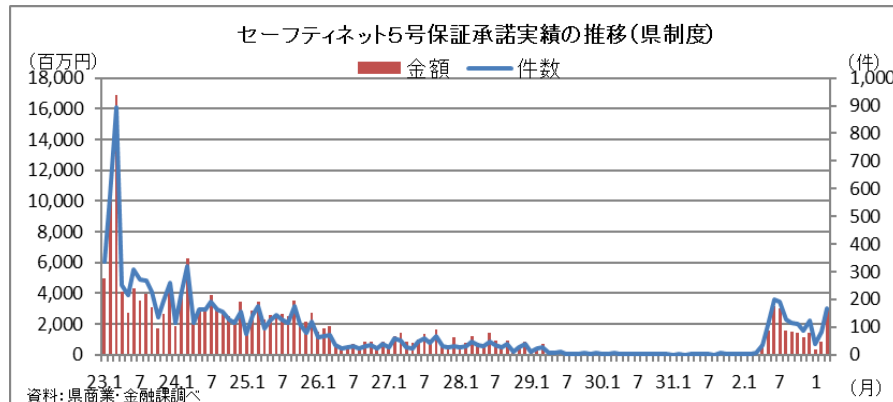
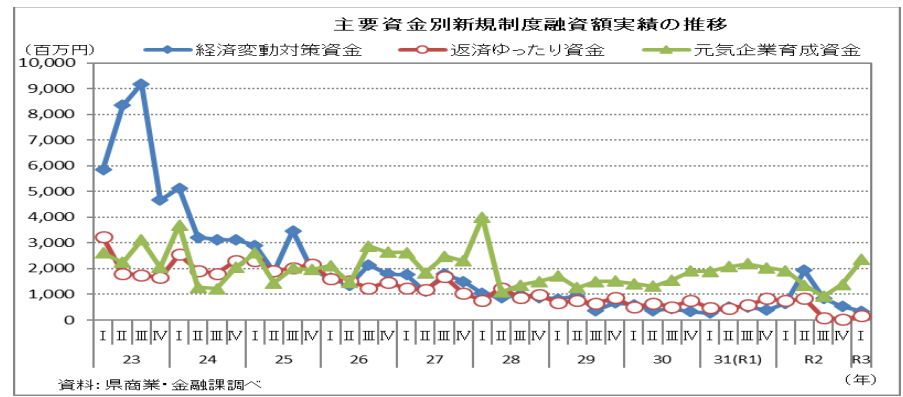
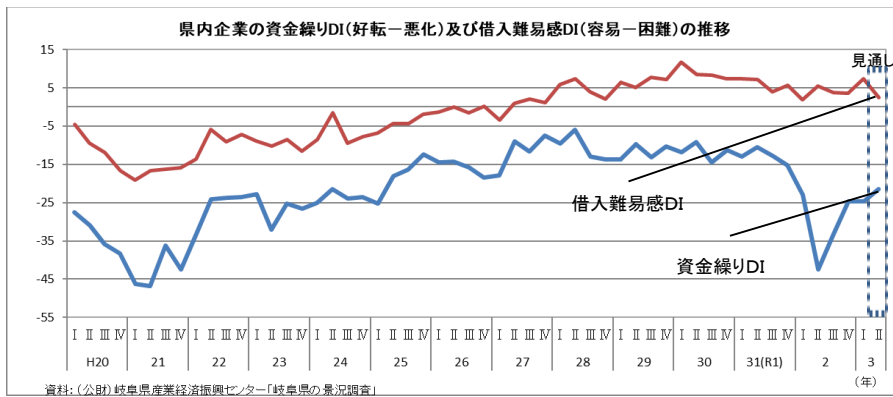


## 現場の動き

- ◆ 足元の資金需要は弱め。無利子融資の申込みが3月末に終了し、資金需要が一巡し落ち着いた。事業者は、無利子融資により借入が大きくなったため、新たな借入に慎重になっている印象。
- ◆ 3月末で終了した無利子融資は、余裕資金確保としての申込みが多かった。
- ◆ 製造業など業績が回復傾向にあるような業種では少しずつ設備投資の話が増えてきている。
- ◆ 物流や自動車関連については、受注回復が顕著であるため、工場や物流センターの新築及び関連する設備投資の話が出てくるようになった。(以上、金融)

# 資金繰り-2

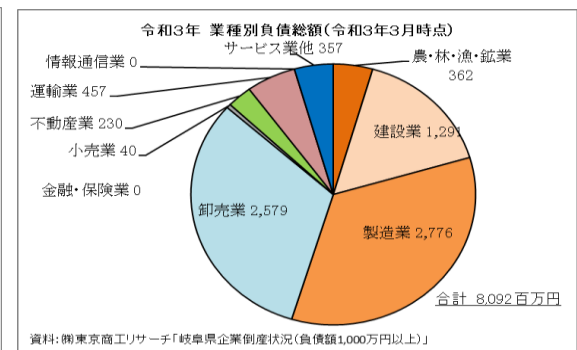
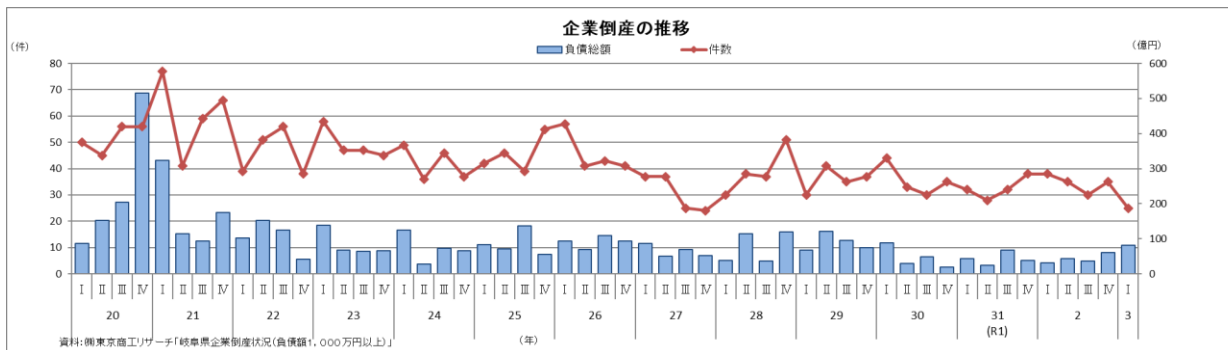
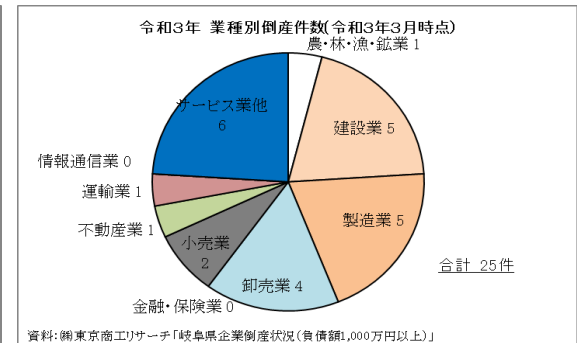
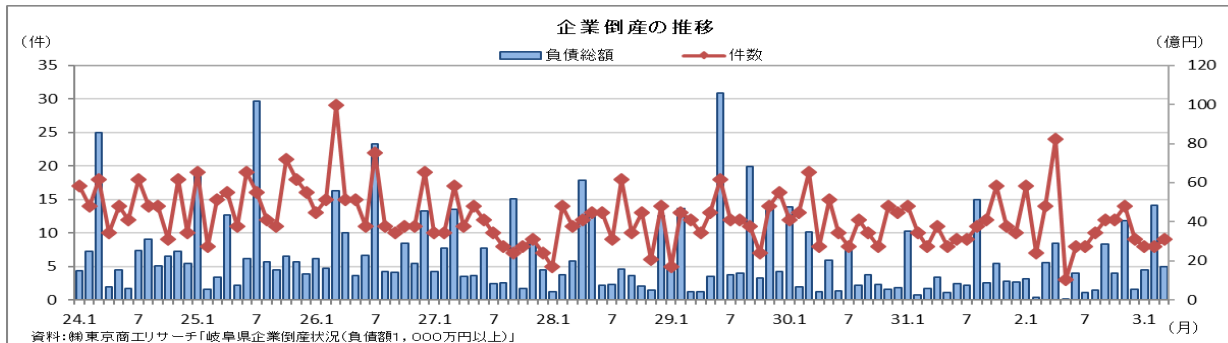
- 4-6月の資金繰りDI見通しは▲21.4で、前期比3.2ポイント上昇。同借入難易感DI見通しは2.5で、同▲4.8ポイント低下した。
- 1-3月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比▲46.3%と8期ぶりに減少、返済ゆったり資金で同▲78.4%と3期連続で減少、元気企業育成資金は同▲23.2%と4期ぶりに増加となった。
- 3月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が167件で前年同月比160件増加、金額は3,046百万円で同2,870百万円増加した。
- 3月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は74件で前年同月比21.3%増加し、金額も818百万円で同65.4%増加した。



# 倒産

○3月単月の倒産件数は前月比1件増の9件、負債総額は前月比3,109百万円減の1,716百万円となった。

○1月から3月までの累計倒産件数は25件となり、前年同期の38件から13件減少。累計負債総額は8,092百万円となり、前年同期の3,144百万円から4,948百万円増加で推移した。



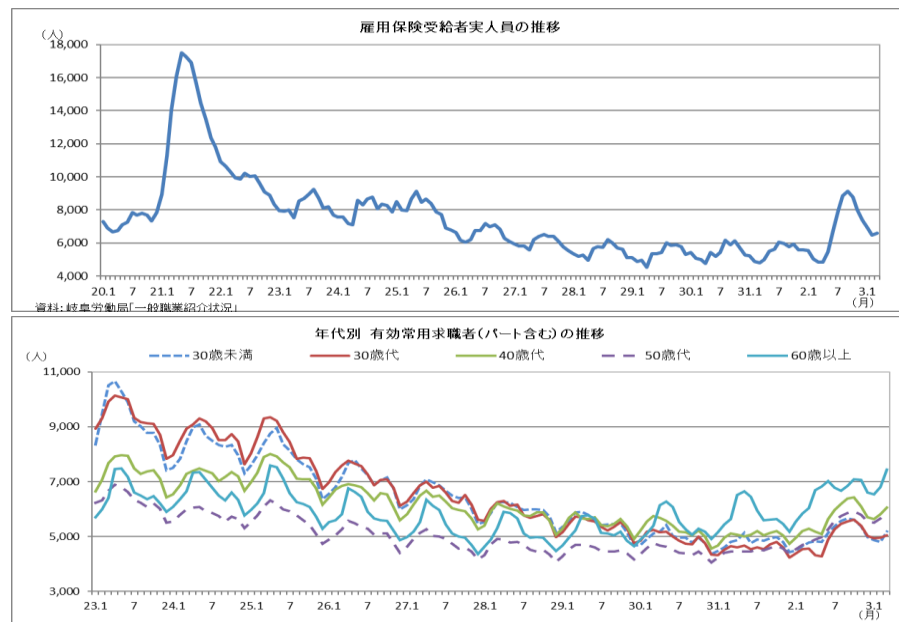
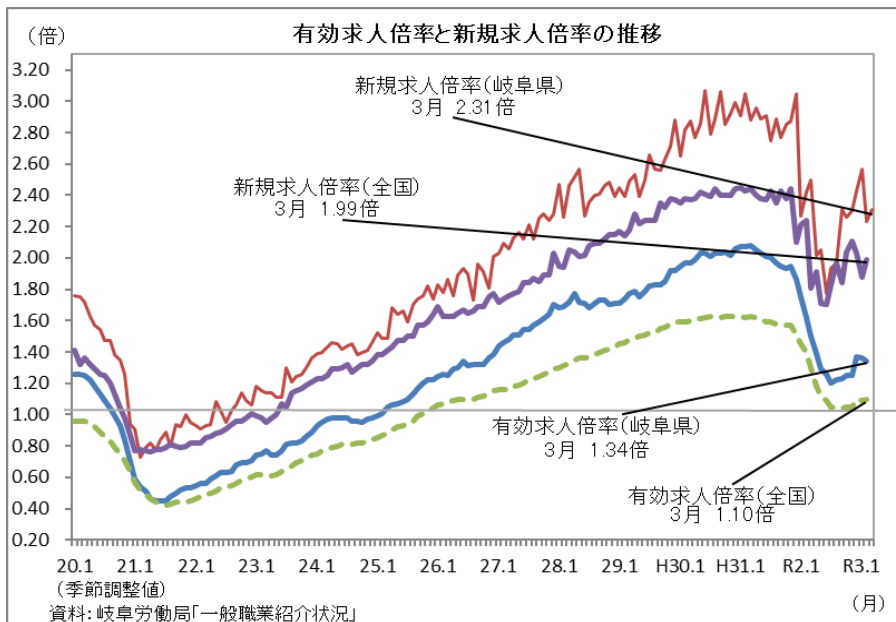
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆ 感染拡大の第4波が広がるなか、「まん延防止等重点措置」の適用は10都府県に広がることになった。適用地域では飲食店への時短営業要請が続くなど、消費関連業を中心に業績回復が更に遅れることが予想される。
- ◆ 金融支援策は継続されるが、事態の長期化による息切れやあきらめ型破たん、過剰債務の問題も浮上しており、コロナ関連破たんは更に増勢が強まる可能性は高く、予断を許さない状況となっている。

# 雇用

- 3月の有効求人倍率は1.34倍と、前月比▲0.02ポイントと2ヶ月連続で減少。
- 3月の新規求人倍率は、2.31倍と同0.08ポイント上昇した。

- 3月の雇用保険受給者人員は、前月比2.2%と増加した。
- 有効常用求職者は、全ての年代において9ヶ月連続で前年同月比増加した。



## 現場の動き

- ◆ 賃金格差の是正の為、現場女性社員の大幅な賃上げを検討している。(輸送用機械)
- ◆ オンラインでの「オール岐阜・企業フェス」は、参加企業も学生も初の試みであったが、フェスに参加した学生が会社訪問を希望するなど、好影響が出ている。(輸送用機械)
- ◆ 人材の過不足感については、技術者の不足感を感じている。派遣社員で対応している。(電気機械)
- ◆ 設計技術者のハローワーク求人を継続して出しているが、反応がない。現状では、外国籍の派遣社員で対応している。(生産用機械)
- ◆ 人材の余剰が発生している。6月に雇用調整助成金が終了してしまうと雇用継続が厳しくなる。(はん用機械)
- ◆ 他業界からの出向人材を受け入れている。(金属製品)



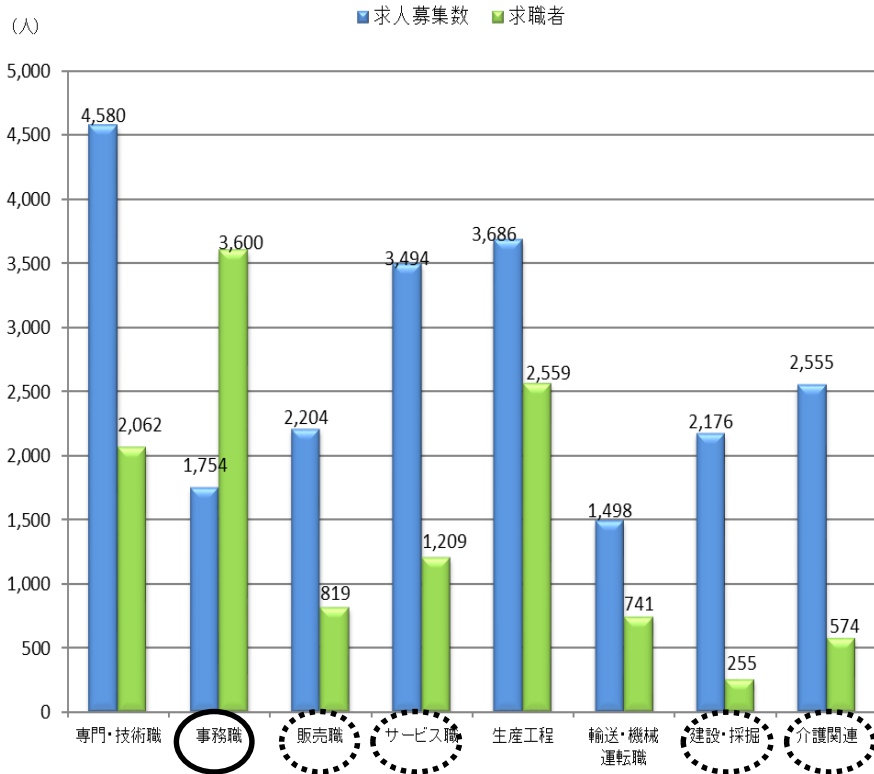
# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で8.53倍、介護関連で4.45倍、サービス職で2.89倍、販売職で2.69倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.49倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

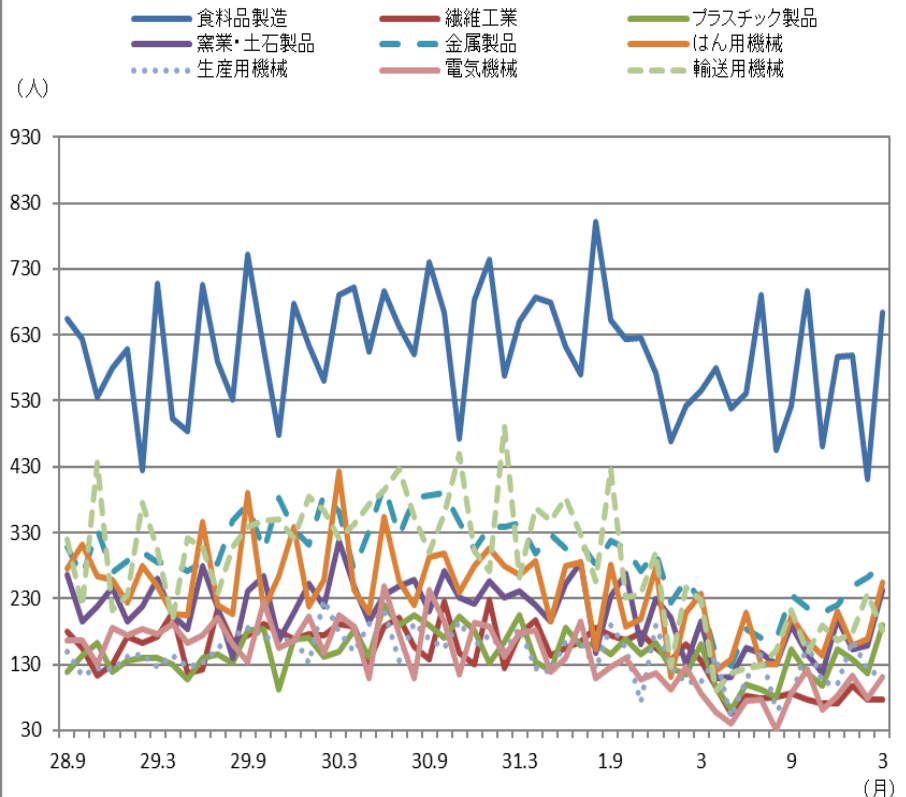
○3月の主要産業別の新規求人数は、電気機械で前年同月比27.6%、金属製品で同24.8%、窯業・土石製品で同24.6%、食料品製造で同21.7%、プラスチック製品で同18.1%、はん用機械で同7.6%、生産用機械で同6.7%と増加したものの、繊維工業で同▲43.4%、輸送用機械で同▲19.8%と減少した。

3月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(通常のフルタイム)



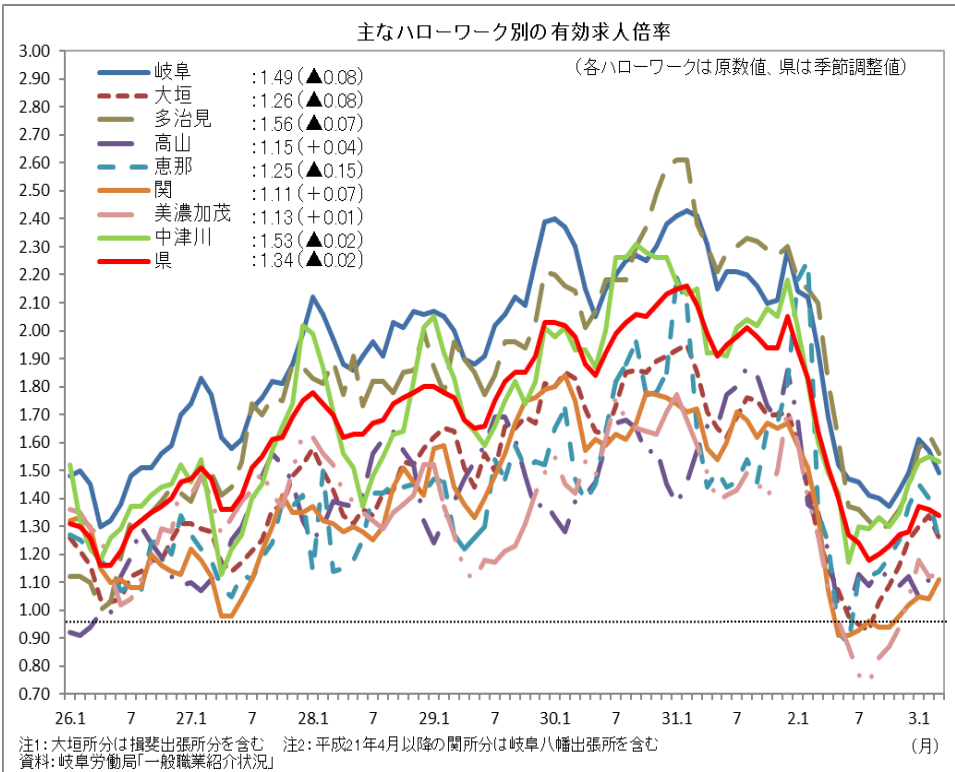
資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

# 雇用(地域別)



〇3月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、高山、関、美濃加茂を除き、低下した。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <窓口の様子> ※前月比

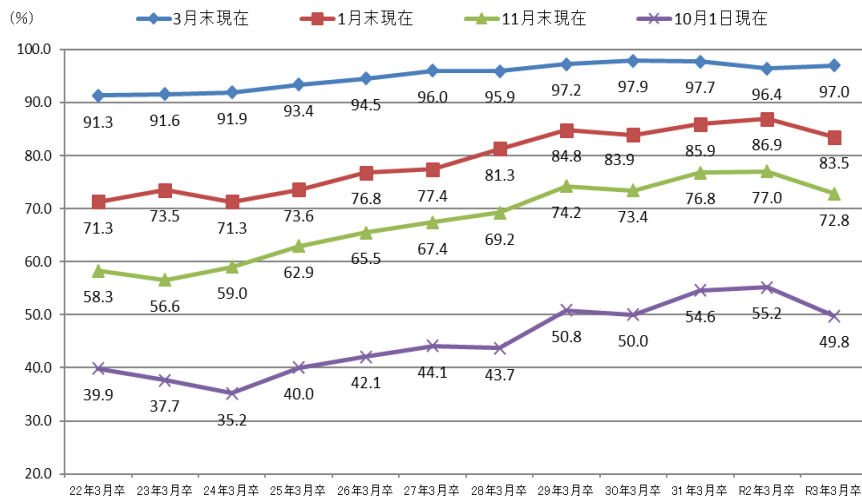
- ◆中津川と高山以外は混雑傾向にある。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和3年3月末時点の大学・短大卒業者(令和3年3月卒業)の就職内定率は、97.0%であり、前年同時点と比べ0.6ポイントと上昇した。

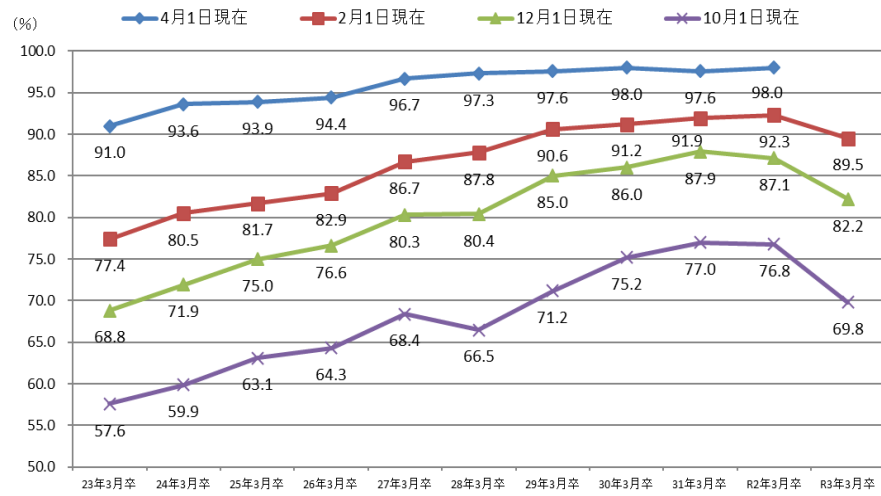
○全国の令和3年2月1日現在の大学卒業者(令和3年3月卒業)内定率は89.5%であり、前年同時点と比べ▲2.8ポイントと低下した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(2022卒の動きなど)

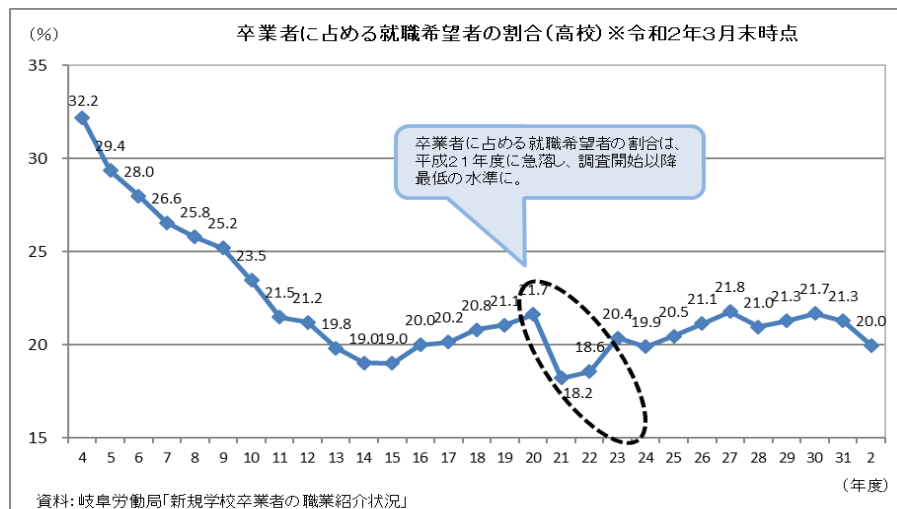
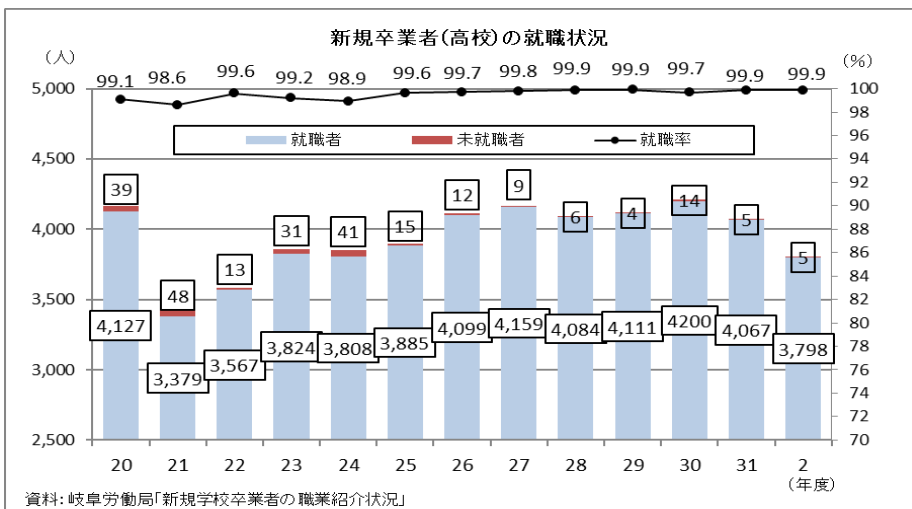
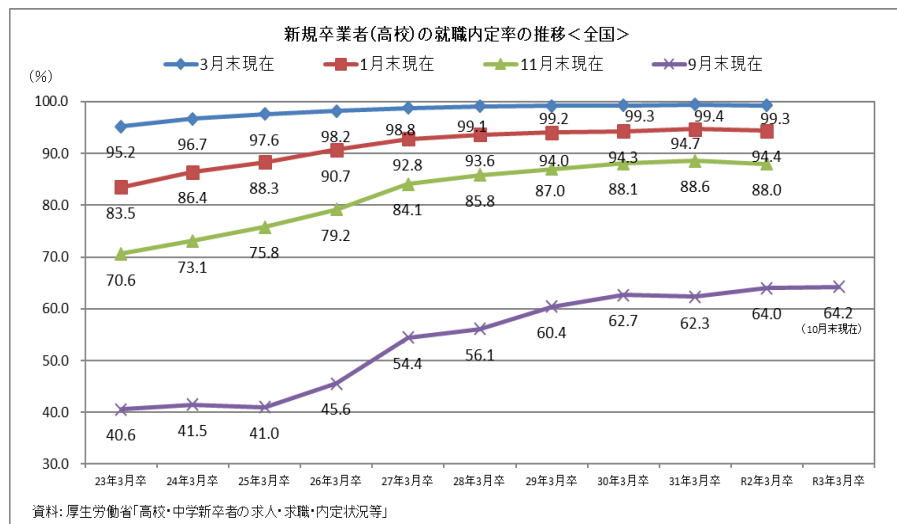
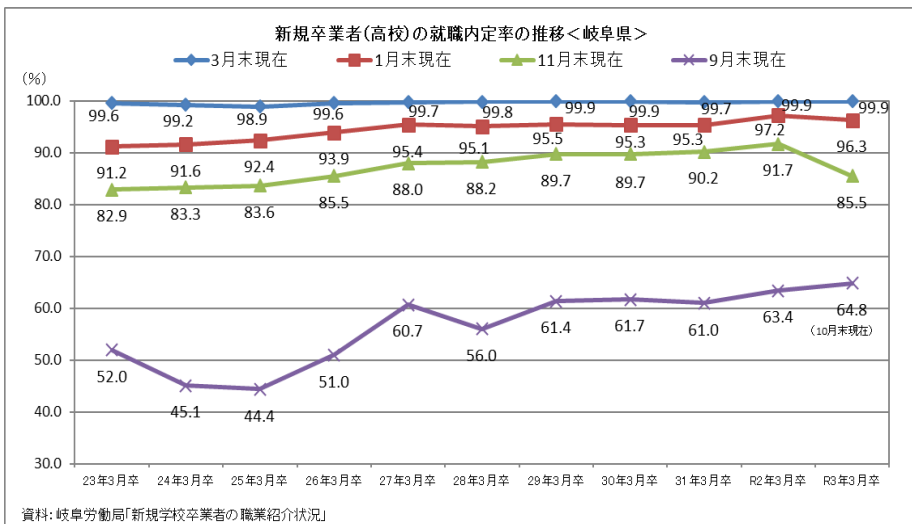
### <大学へのヒアリング>

- ◆ 22卒は4月に選考結果が出る企業が多い。オンライン面接をする場所を貸してほしいという相談が多い。
- ◆ 22卒は状況が二極化している。筆記試験で落ちる学生が多く、企業の足切りのボーダーが上がっている可能性もある。
- ◆ 23卒のガイダンスを対面で実施。まずまず集まった。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 22卒はかなり内々定を獲得する学生が増えてきた。IT業界からの内々定が多く、早い時期から選考が進んでいた。
- ◆ 22卒は4月に入ると相談が少し落ち着いてきた。学生からの声でも、大手企業の説明会が4月に入って減ってきているという声があった。(以上、愛知県内大学)

# 雇 用(高校新卒者の就職)

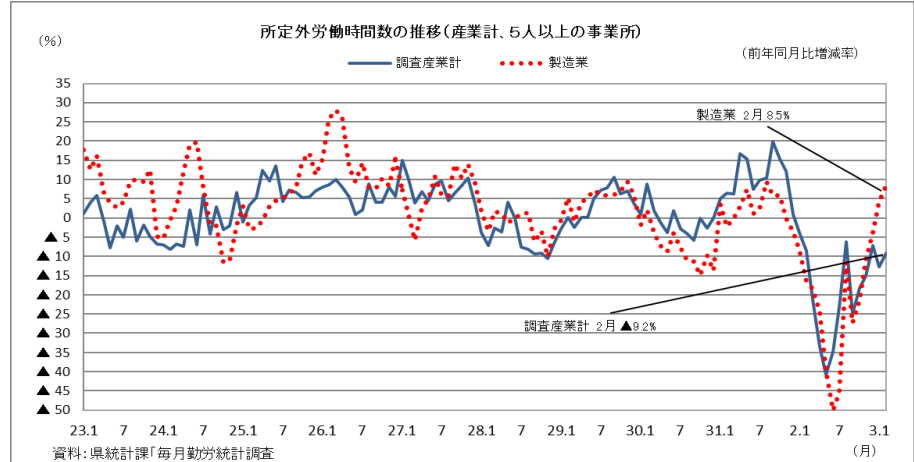
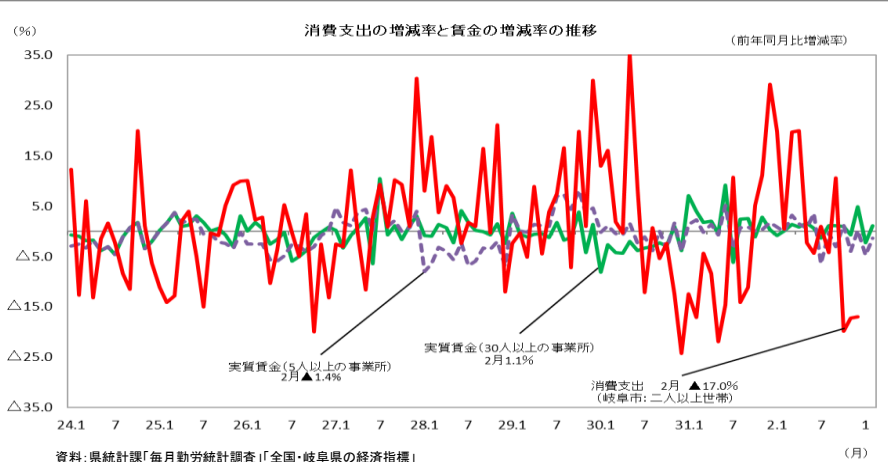
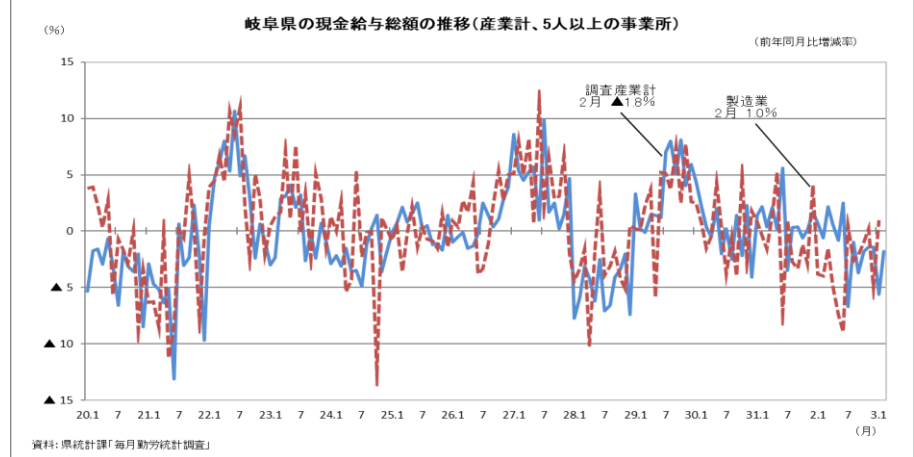
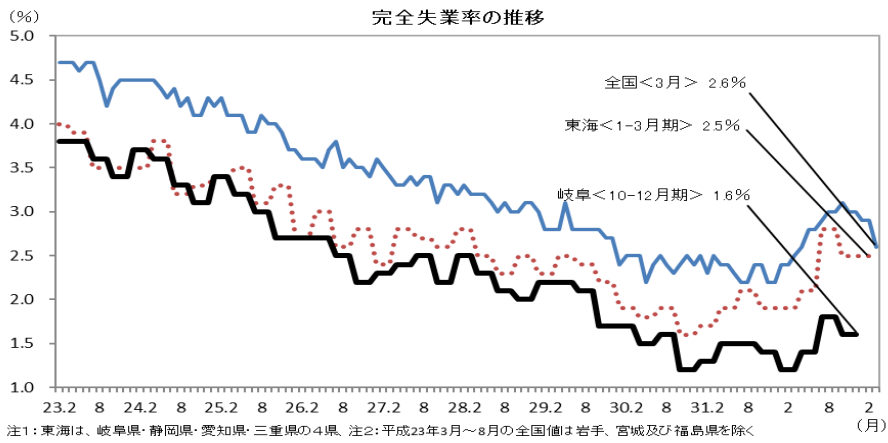
○岐阜県の令和3年3月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時期と同水準となった。

○全国の令和2年10月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は64.2%であり、前年同時期と比べて0.2ポイント上昇した。



# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の3月の完全失業率は2.6%で前月比▲0.3ポイントと低下。岐阜県の10-12月期の平均は1.6%で前期比▲0.2ポイントと低下。
- 2月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲1.8%と減少、製造業で同1.0%と増加。
- 2月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所は前年同月比1.1%、5人以上の事業所は同▲1.4%と減少。2月の消費支出については同▲17.0%と減少した。
- 2月の所定外労働時間数は前年同月比▲9.2%と14ヶ月連続で減少した。



# <経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、2月の鉱工業生産指数が前月比3.4%と上昇。ヒアリングでは、自動車関連を中心に需要が回復しつつあり、工場の稼働率も堅調に推移しているとの声が多くあった。
- 地場産業は、2月の鉱工業生産指数が窯業・土石と木材・木製品、食料品で上昇したものの、家具、繊維工業、パルプ・紙で低下した。新型コロナウイルスの影響により、医療用ガウンなどの需要はあるもののメンズスーツの売れ行きが厳しいとの声や、レストラン向けの商品の売上が落ち込んだなど、ヒアリングでは厳しい声が多くあった。
- 設備投資は、3月の金属工作機械受注額が国内向けで28ヶ月連続で前年を下回ったが、海外向けでは5ヶ月連続で前年を上回り、全体としては2ヶ月連続で前年を上回った。ヒアリングにおいては、IT関連の設備投資を加速させる動きが見られた。
- 個人消費は、家電大型専門店で前年同月比11.9%、ホームセンターで同2.2%、コンビニで同0.9%と増加したものの、ドラッグストアで同▲5.3%、百貨店・スーパーで同▲1.2%と減少し、全体では同▲0.4%となった。ヒアリングにおいては、前年に見られたまとめ買いの傾向があまり見られなくなるなど、消費行動に変化が起きつつあるとの声が聞かれた。
- 観光は、新型コロナウイルスの影響により客数は観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。3月1日から国の緊急事態宣言の解除に伴い、不要不急の外出や移動の自粛が緩和されたことで観光入込客数は2月に比べて増加。宿泊施設へのヒアリングにおいては、先行きが不透明であり、未だ全社員が出勤できるだけの売上がないなど厳しい声が多くあった。
- 企業の資金繰りは、3月の制度融資実績は、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、3月末で終了した無利子融資が終了し、借り入れの申込みが落ち着いている、との声があった。
- 雇用面は、3月の有効求人倍率が1.34倍と2ヶ月連続で減少した。ヒアリングでは、人材の余剰が発生しており雇用調整助成金が終了することを危惧する声があった。一方では他業界からの出向者を受け入れる動きがあるなど、業界や企業によって雇用状況に差が見られた。